

新容器の採用経緯

この新容器は、製薬会社でのみ使用されているもので、過酸化水素水の原液を保管する為の特殊な容器です。

従いまして、臭わ9の過酸化水素量をはるかに超えるものでも十分に安全性が保たれているものです。

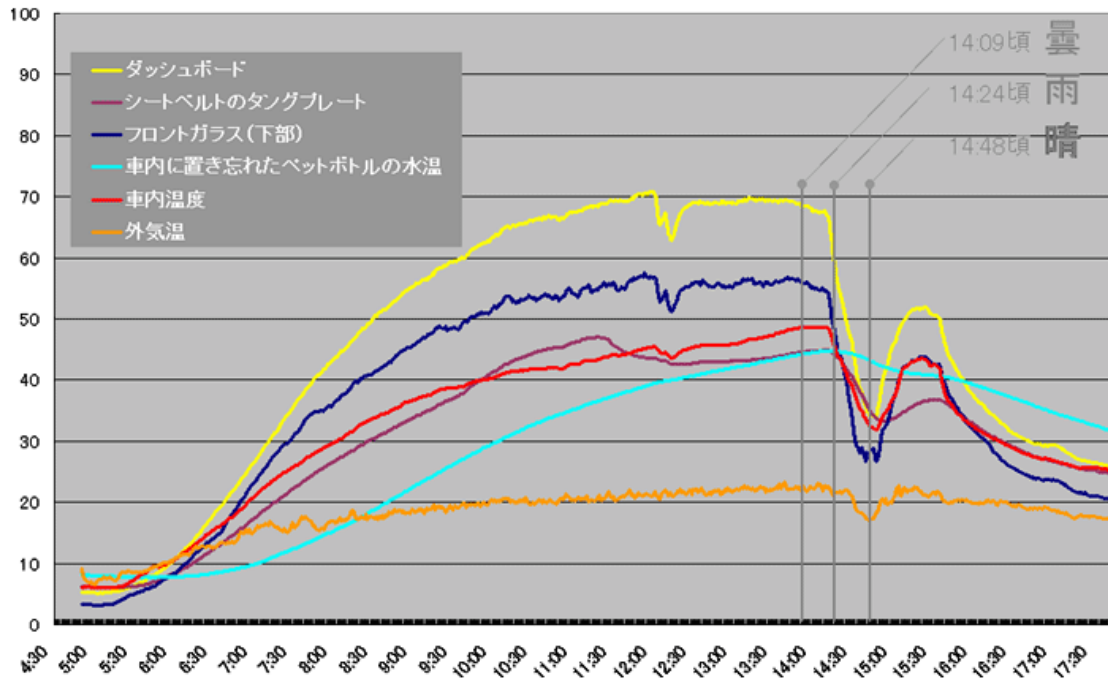
これに様々な実験を繰り返し、十分に安全性が確認できた結果として、念のために、遮光処理を行った特注品を使用することで、臭わ9の新容器とさせて頂きました。

新容器での臭わ9 耐久実験及び関連データ

車内温度変化テストデータ (JAF)

実施日: 2007 年 4 月 26 日、場所: 彩湖・道満グリーンパーク駐車場 (埼玉県戸田市)

外気温 (最高温度): 23 度



考察

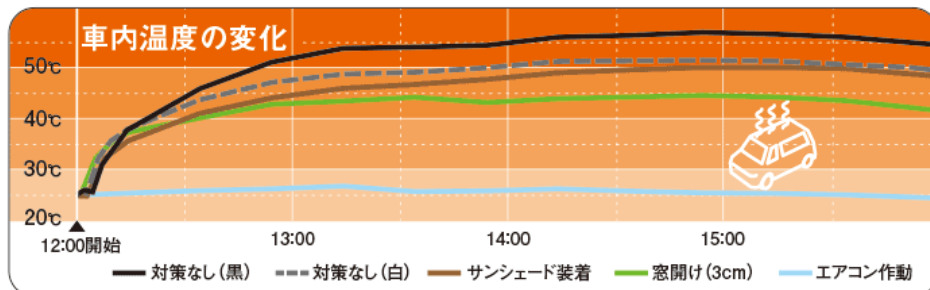
車内温度よりも液体温度は若干低めであることが分かります。

因みにこのテストでは、車内に置いた一部の缶入り炭酸飲料が破裂しました。

車内温度変化テストデータ

(JAF) 実施日: 2012 年 8 月 22 日・23 日、彩湖・道満グリーンパーク駐車場 (埼玉県戸田

外気温 (最高温度): 35 度



考察

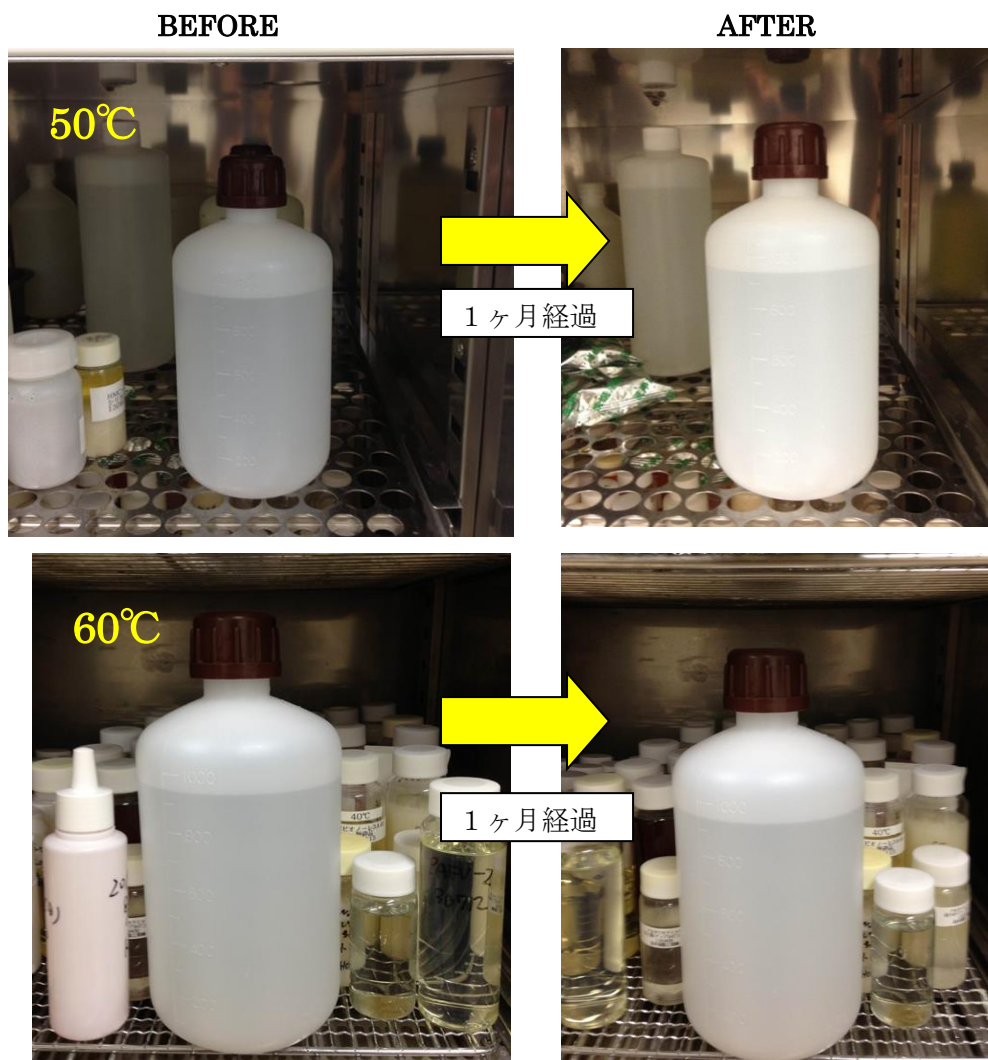
この実験では、車内温度は60度までは上がらなかったと考えられます。

これにより、恒温槽の高温設定を60度としました。

製造会社での実験

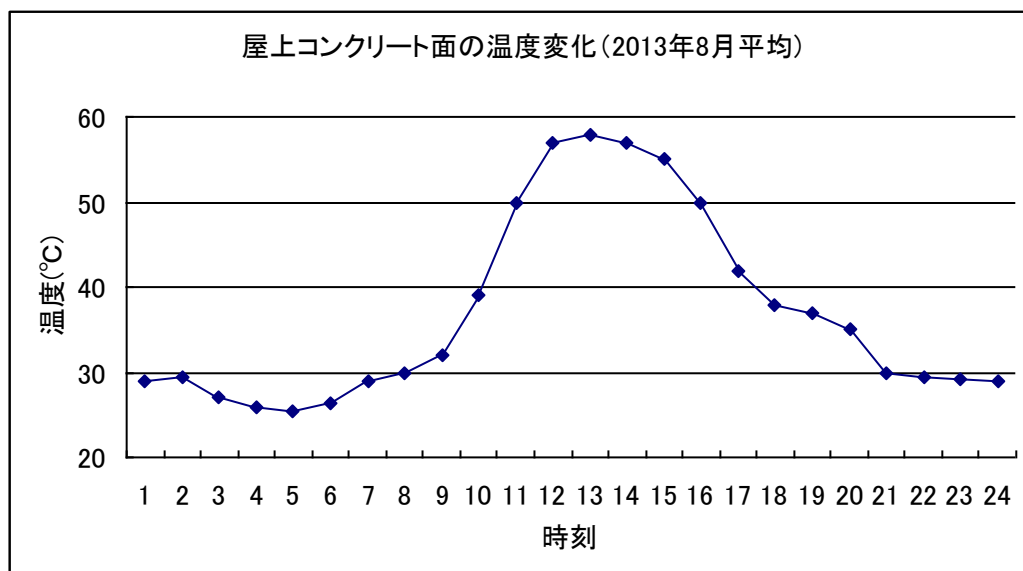
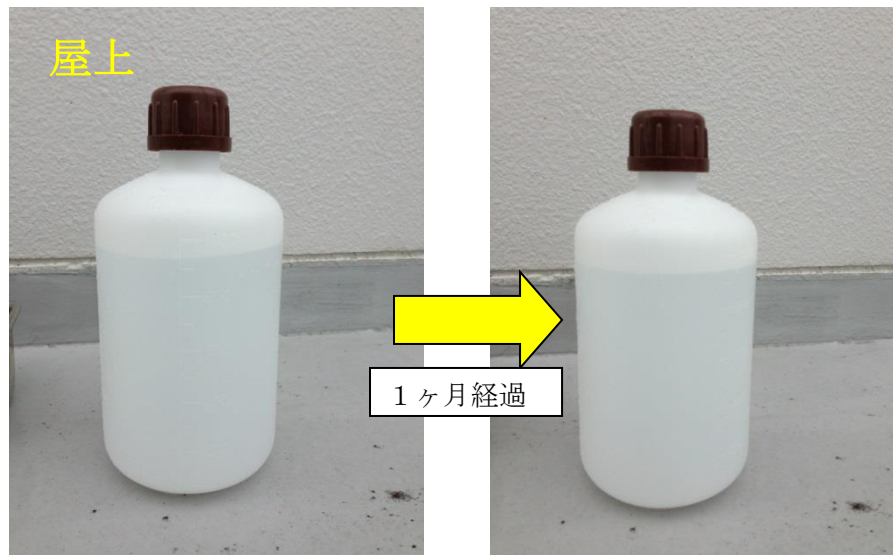
実験 1：新容器を 50℃と 60℃の恒温槽で一か月間放置する

結果：変化なし



実験 2：製造会社屋上コンクリートで一か月間放置する

結果：変化なし



車内放置実験

1：車内後部に段ボールに入れた新容器の臭わ9を放置する。

実験開始日：2013年8月19日

実験者1：株式会社ニック保有のホンダフィット

実験者2：臭わ9製造業者保有の日産サニーADバン

実験結果1

2013年9月30日に実験者1・実験者2共に検証をする。

実験者1

容器の膨らみ：なし

吹き出し：なし

キャップをあけた時の（プシュ）音：なし

溶液の減り：なし

実験者2

容器の膨らみ：なし

吹き出し：なし

キャップをあけた時の（プシュ）音：なし

溶液の減り：なし

実験結果2： 実験1後に引き続き放置する

2013年10月23日現在も実験者1・実験者2共に異常なし

1：車内後部に段ボールに入れた新容器の臭わ9を横倒した状態で放置する

実験開始日：2013年9月2日

実験者1：株式会社ニック保有のホンダフィット

実験結果：2013年9月4日に検証をする。

液の漏れ：若干量の漏れあり

容器の膨らみ：なし

吹き出し：なし

キャップをあけた時の（プシュ）音：なし

横倒しをして長時間放置すると、若干量の漏れは見られるが、吹き出しや膨らみ等の問題は無い

屋内放置実験

1：ニック社内の最も暑くなる部屋に段ボールに入れた新容器の臭わ9を放置する。

実験開始日：2013年8月20日

実験結果

2013年9月30日に検証をする。

容器の膨らみ：なし

吹き出し：なし

キャップをあけた時の（プシュ）音：なし

溶液の減り：なし

過度実験

- 90度のお湯をバケツに入れ、新容器の臭わ9を湯浴させる
- 30分おきに、お湯を入れ替える
- この状態を5時間続ける



実験の様子 実験者：尾野

お湯を換える時（30分経過時）にもお湯は触れることができないほど熱い

勿論、臭わ9の容器も触れないほど熱い。

実感としては、これで全く異常がないので、熱膨張に関しては完全に安心を提供できます。

結果

容器の膨らみ：なし

吹き出し：なし

キャップをあけた時の（プシュ）音：なし

溶液の減り：なし

株式会社ニック Pro バイダー

担当：尾野